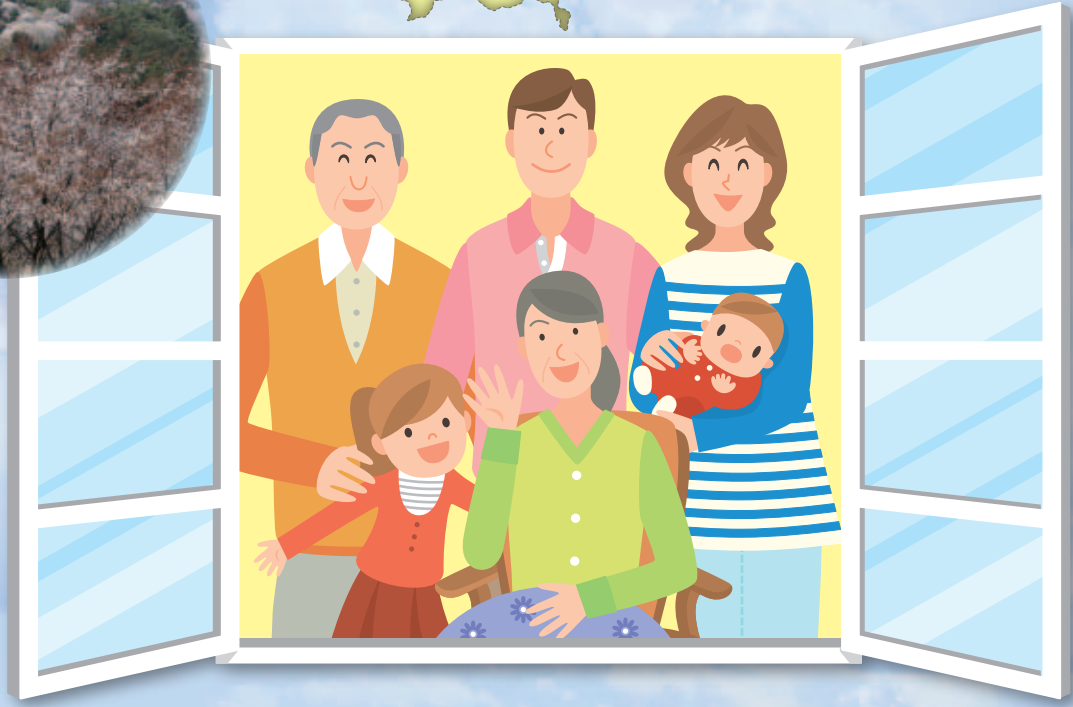


# 奈良県南部振興基本計画



平成27年3月  
奈良県

## はじめに

全国で「地方創生」への取組が始まっています。

奈良県において、この「地方創生」の大きな舞台となるのは、過疎化、高齢化が進む南部東部地域です。

県では、この「地方創生」の動きに先んじて、平成23年3月に『南部振興計画』（平成24年10月に『東部振興計画』）を策定し、南部東部地域の将来を見据えた取組に着手し、移住者の受入体制の整備や色々なイベントの実施などにより、この地域の振興を進めてきました。

計画策定から4年が経過しましたが、その間の地域の状況変化、紀伊半島大水害の経験、これまでの取組成果などを踏まえ、南部東部地域のさらなる振興に取り組むために、今回、新たな振興計画を策定しました。

しかし、地域の振興は、県、市町村といった行政の取組だけで実現するわけではありません。

紀伊半島大水害からの復旧過程においては、行政だけに任せず、被災地の住民自らが連帯、協力してまちづくりを進め、地域の元気を取り戻す姿がありました。

地域の方々が主役となり、行政や地域外の団体などがそれをサポートするような取組や、行政などがモデル的に地域を引っ張るような取組など、様々な形で地域の方々とともに取り組むことにより、相乗して大きな力となります。

地域住民、関係市町村、団体、地域外の方まで、広く英知を結集し、本計画に示す「頻繁に訪れてもらう地域になる」「住み続けられる地域になる」という目指す姿を共有しながら、南部東部地域の振興を実現していきたいと考えていますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成27年3月

奈良県知事 荒井 正吾

# 目次

<b>第1章 計画の策定にあたって</b> .....	2
1. 計画策定の趣旨 .....	2
2. 計画の対象地域 .....	2
3. 計画の期間 .....	3
4. 計画の構成 .....	3
5. 計画の推進体制 .....	3
<b>第2章 南部地域の現状と目指す姿</b> .....	4
1. 南部地域の現状 .....	4
2. 南部地域が目指す姿 .....	11
<b>第3章 南部地域の今後の施策展開</b> .....	13
1. 訪れてみたくなる地域づくり(交流の促進) .....	13
(1) 魅力を発見する、創る .....	15
(2) 知ってもらう .....	17
(3) 訪れてもらう、体験してもらう .....	18
2. 住み続けられる地域づくり(定住の促進) .....	20
(1) 働きやすくする .....	23
(2) 暮らしやすくする .....	26
(3) いざというときに備える .....	28
(4) 移り住んでもらう .....	30



### 3

## 計画の期間

平成27年度から平成32年度(『復旧・復興計画』の最終年度)までの6年間とします。

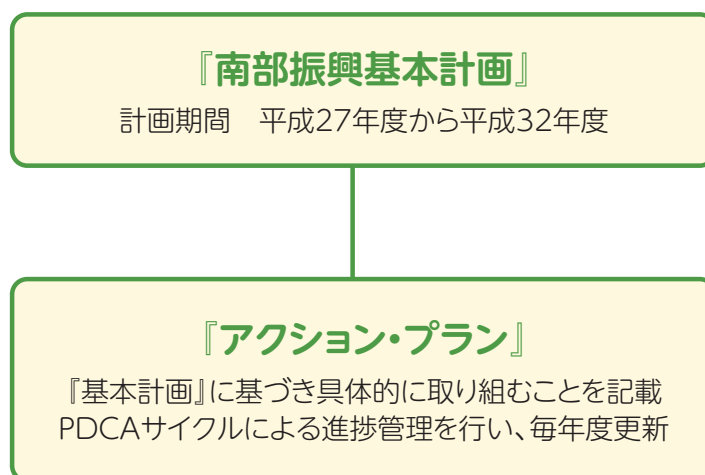
### 4

## 計画の構成

『基本計画』は、南部地域における現状と目指す姿、取組項目などで構成されています。

さらに、県が実施・支援する取組と工程を具体的に記載した『アクション・プラン』を別途、毎年度策定し、PDCAサイクルによる進捗管理を行い、『基本計画』の目指す姿の実現を図ります。

図2:計画の構成



### 5

## 計画の推進体制

県では、『基本計画』を推進するため、市町村、地域住民、NPOなどの各種団体、企業等の多様な主体と連携・協働して、各種施策を進めていきます。

また、庁内関係部局で構成する「南部・東部振興推進本部会議(本部長:知事)」で事業の進捗等を確認しながら、『基本計画』の計画的推進を図っていきます。



南部・東部振興推進本部会議

# 第2章 南部地域の現状と目指す姿

## 1

### 南部地域の現状

#### 地 勢

- 南部地域の面積は2,457.33km<sup>2</sup>で、県全体の3分の2を占めています。  
可住地面積は約1割であり、大部分を森林が占めています。

表1:南部地域の人口・面積等

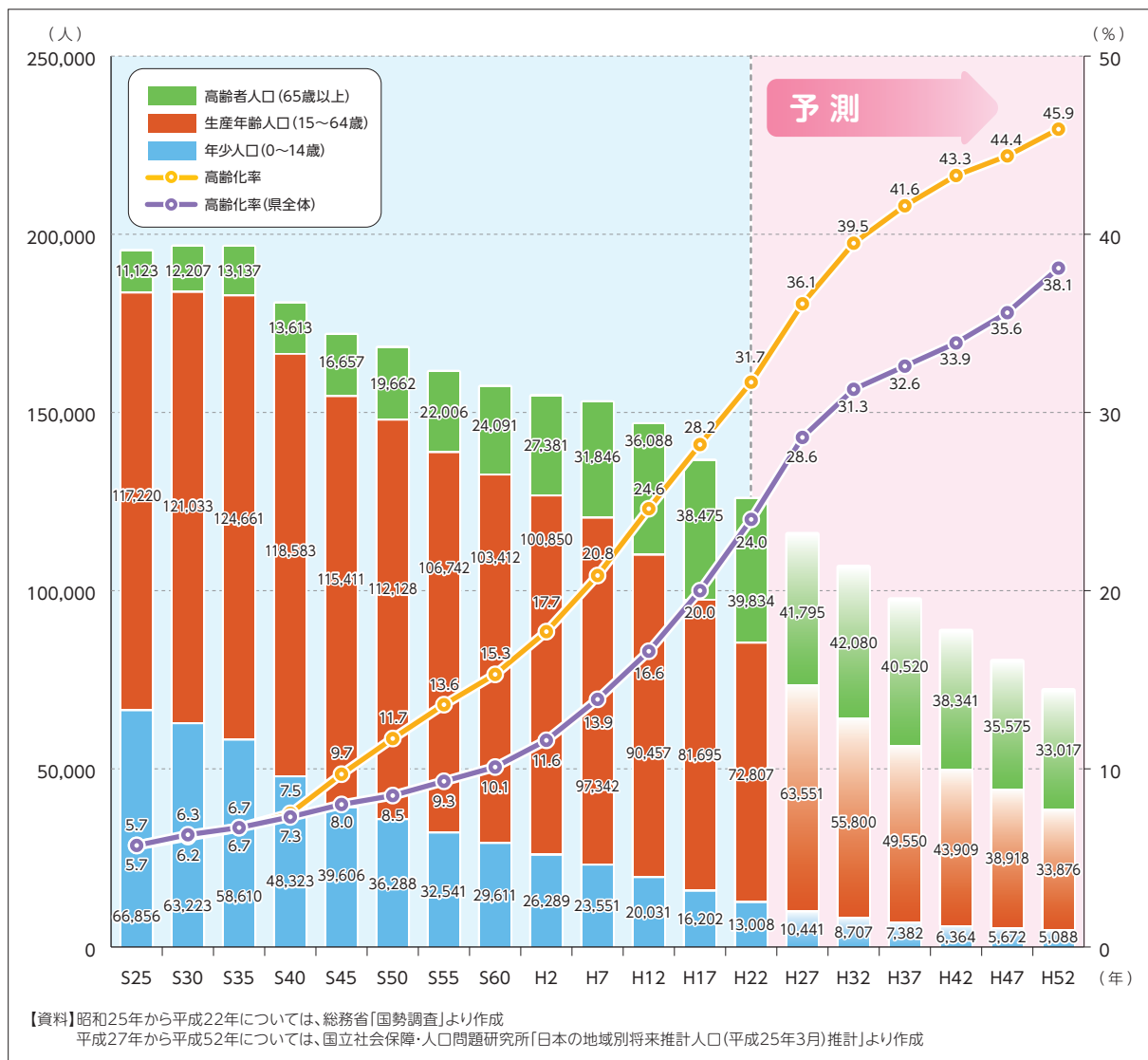
区分	人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	可住地面積 (km <sup>2</sup> )	林野面積 (km <sup>2</sup> )	耕地面積 (km <sup>2</sup> )
南部地域	81,849	2,346.90	34.9	198.32	2,148.58	44.07
南部地域と同様の課題を抱える地域	43,800	110.43	396.6	48.73	61.70	19.17
南部振興計画の対象地域	125,649	2,457.33	51.1	247.05	2,210.28	63.24
(県全体に対する比率)	(9.0%)	(66.6%)	(-)	(29.0%)	(77.8%)	(28.4%)
参考)県全体	1,400,728	3,691.09	379.5	851.43	2,839.66	223.00
参考)全国	128,057,352	377,946.53	338.8	122,156.43	248,453.02	45,370.00

【資料】総務省「平成22年国勢調査」、農林水産省「2010年世界農林業センサス」、農林水産省「平成25年度作物統計調査」より作成  
※可住地面積＝面積－林野面積－湖沼面積

#### 人口の推移

- 平成22年の南部地域の人口は125,649人で、県全体の約9%を占めています。  
昭和30年の約19万6千人をピークとし、現在では当時の約4割減になっています。
- 年齢別に見ると、特に年少人口(0～14歳)の減少が著しく、昭和25年には約6万7千人でしたが、現在では約8割減の約1万3千人になっています。  
生産年齢人口(15～64歳)は、昭和35年の約12万5千人をピークとし、現在では約4割減の約7万3千人になっています。  
高齢者人口(65歳以上)は、昭和25年には約1万1千人でしたが、現在では約3.6倍の約4万人に増加し、高齢化率は31.7%になっています。
- 将来人口推計によれば、今後も、人口減少は続き、平成52年には約7万2千人に減少し、高齢化率も50%に迫ると予測されています。

図3:南部地域における人口の推移



町家の雞めぐり(高取町)



亀石(明日香村)

交流(観光)に関する状況

- 南部地域には、吉野山の桜、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、十津川温泉、大台ヶ原、明日香の歴史遺産、洞川温泉など魅力的な観光資源がたくさんあります。
- 平成23年9月の紀伊半島大水害で一時的に落ち込んだ南部地域の宿泊客数は、プレミアム宿泊旅行券の発行や観光プロモーションの充実などにより、平成24年、平成25年は被災前の水準を上回りました。

図4:南部地域における観光スポットの認知度と興味度

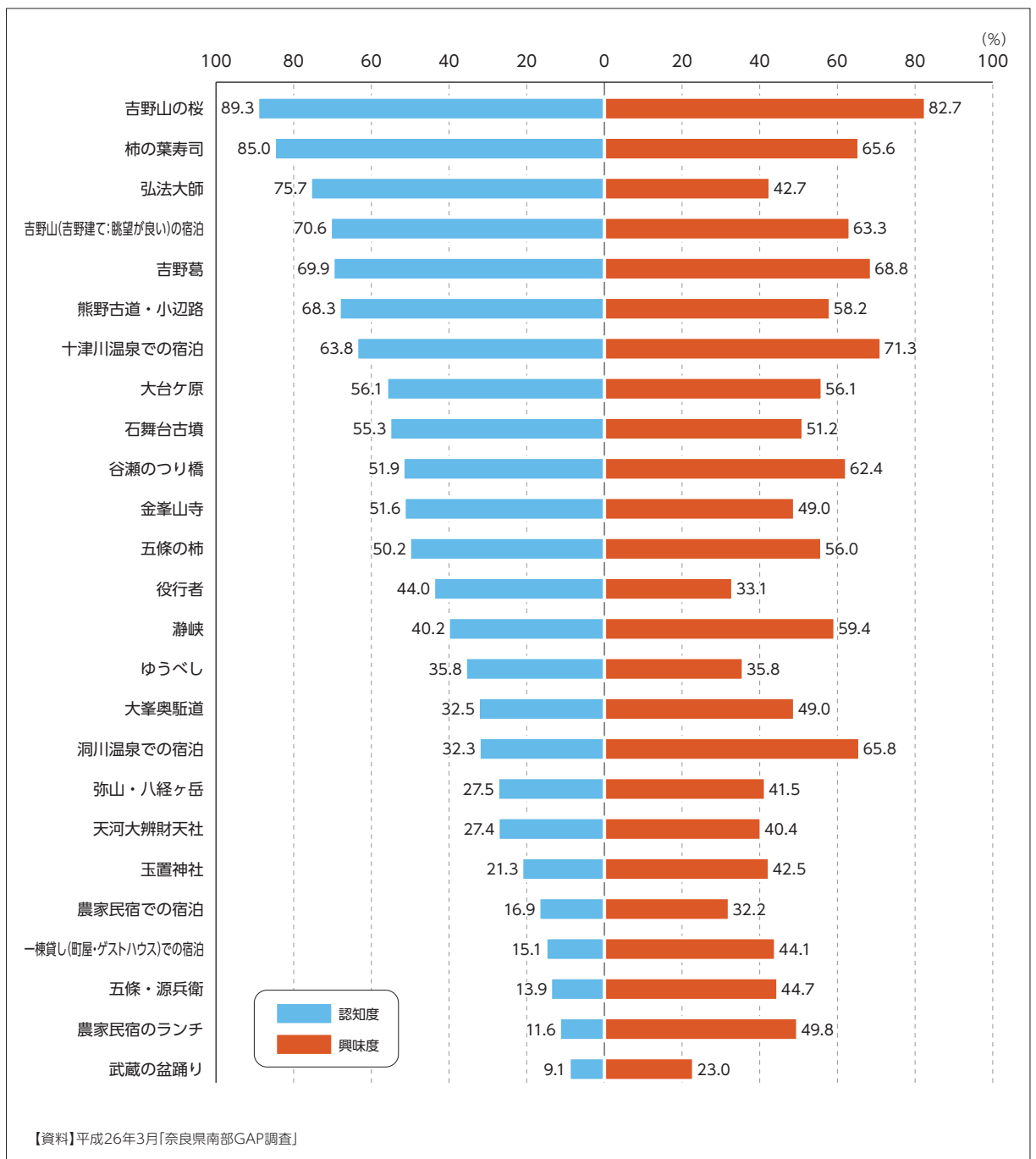
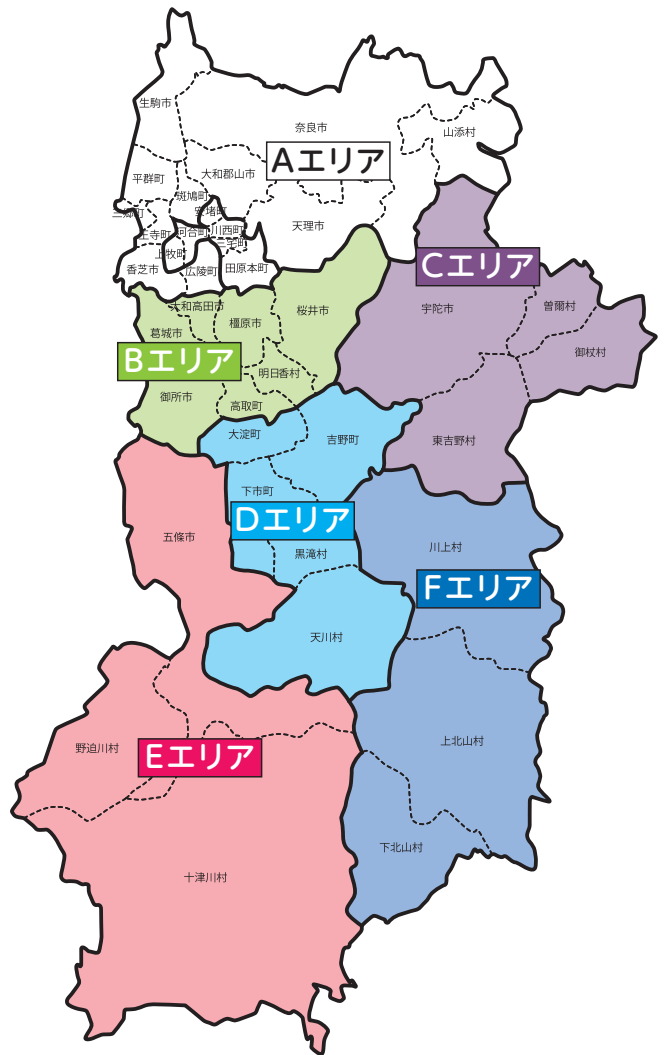
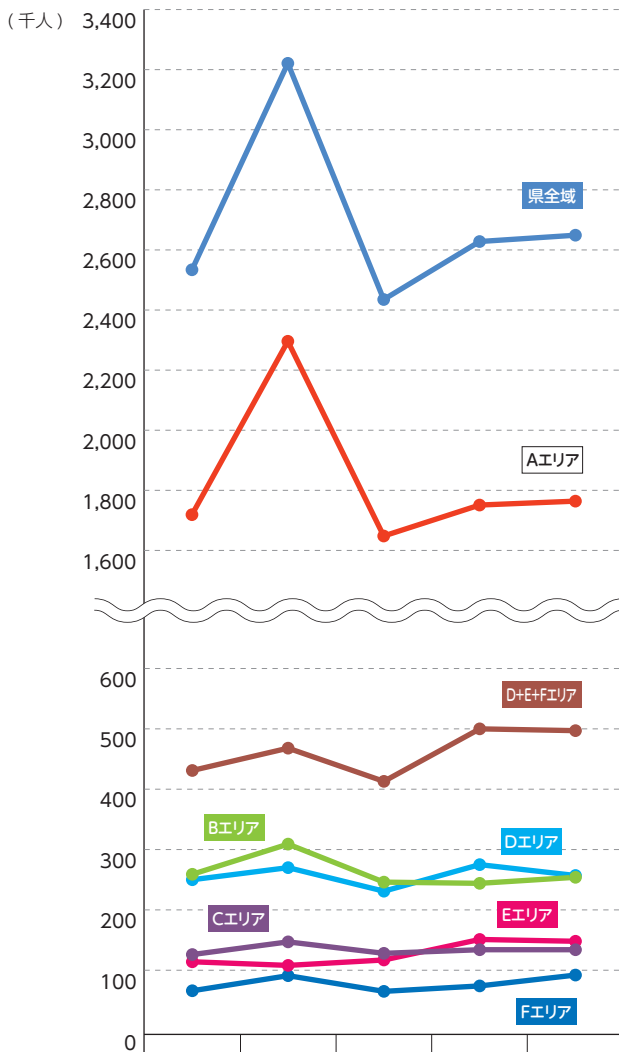


図5:奈良県における宿泊客数の推移



	H21	H22	H23	H24	H25
県全域	2,534	3,221	2,435	2,628	2,649
Aエリア	1,719	2,296	1,648	1,751	1,764
Bエリア	259	309	246	244	254
Cエリア	126	147	128	134	134
Dエリア	250	270	231	275	257
Eエリア	114	108	117	151	148
Fエリア	66	91	65	74	92
(D+E+F)エリア	431	468	413	500	497

【資料】奈良県宿泊統計調査



洞川温泉(天川村)

仕事に関する状況

- 平成22年の南部地域における就業者数は52,557人となっています。  
昭和35年の約9万人をピークとして、現在では当時の約6割に減少しています。
- 特に第1次産業就業者数の減少が著しく、昭和25年には約4万2千人でしたが、現在では約9割減の約4千3百人になっています。なお、南部地域における第1次産業就業者率は8.2%で、全国の4.2%や県全体2.7%と比べて高いのが特徴です。
- 就業者の従業地は、約7割が南部地域内、約2割が南部地域外(県内)となっています。

図6:南部地域における産業別就業者数の推移

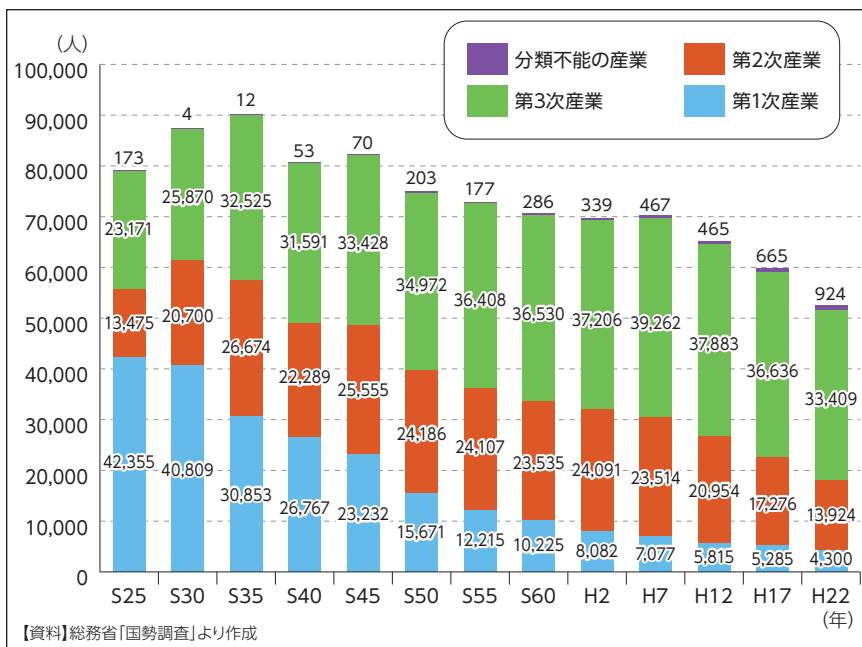


図7:産業別就業者率の比較

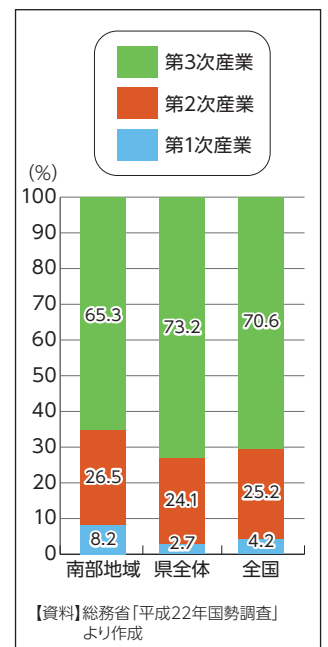
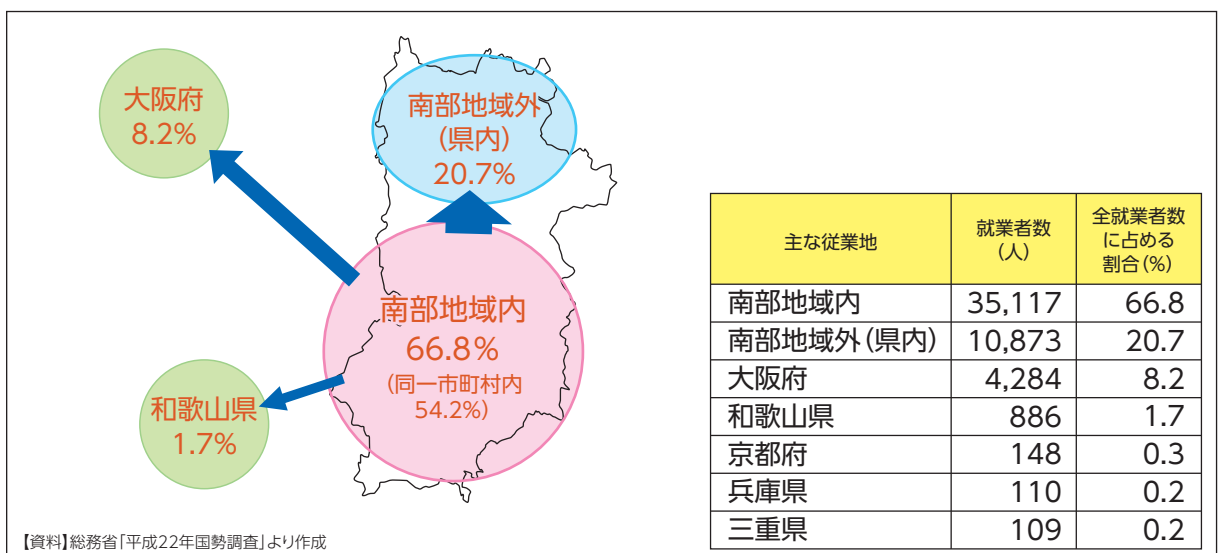


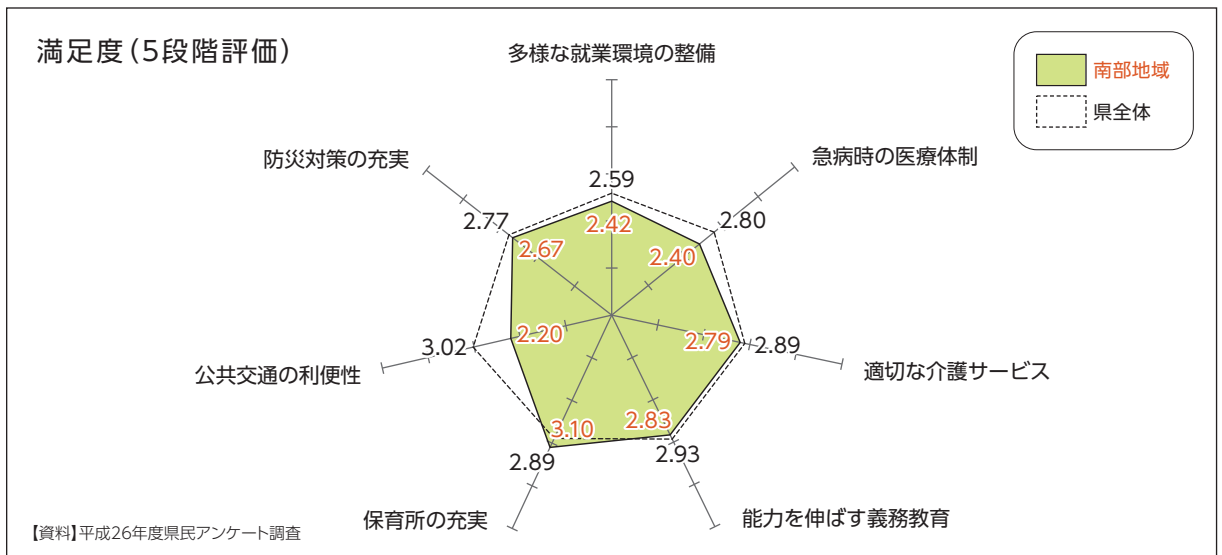
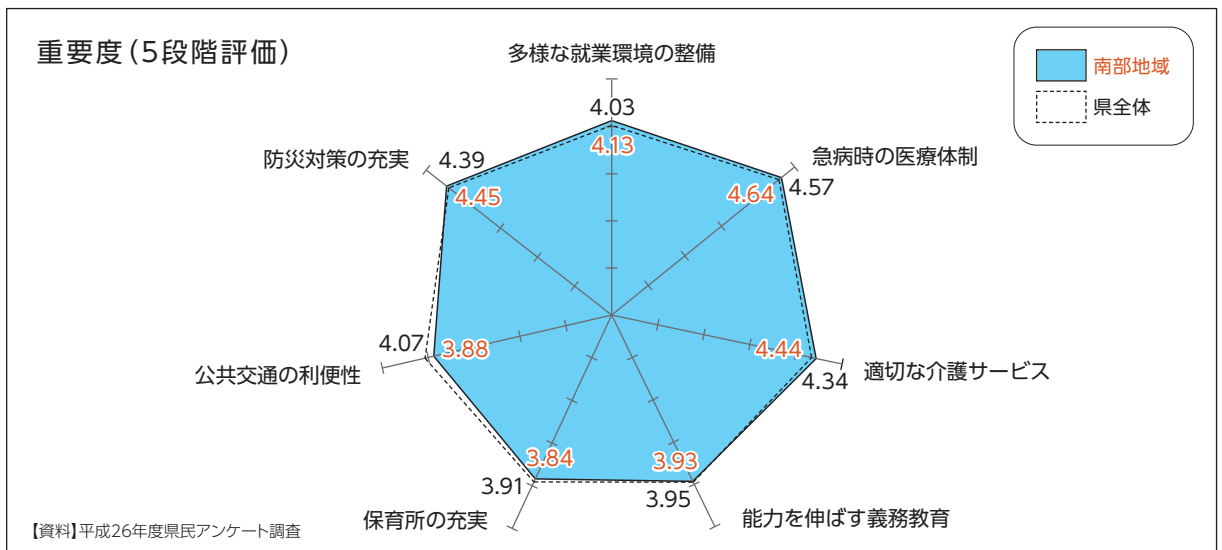
図8:南部地域における就業者の従業地



## 暮らしに関する状況

○「平成26年度県民アンケート調査」によると、南部地域の生活に関する項目の重要度は、県全体と変わりませんが、満足度については、「交通」や「医療」に関する項目において、県全体に比べて低い状況にあります。

図9:南部地域における生活に関する項目の重要度・満足度



南奈良総合医療センター  
外観イメージ(大淀町)

トピック

「南部地域はいいところ」と実感できる指標



十津川の大踊(十津川村)

地域

「コミュニティがしっかりしていて、住民同士のきずなが強い」

- 指標
- ・地域活動・地域の催し物への参加率 72.8%(県全体65.4%)【資料①】
  - ・近所づきあいの程度が高い人の割合 71.0%(県全体58.6%)【資料①】
  - ・子供の地域行事への参加率 56.9%(県全体53.3%)【資料②】

「犯罪・事故が少なく、安全・安心に暮らすことができる」

- 指標
- ・人口100人当たりの刑法犯認知件数 0.64件(県全体0.81件)【資料③】
  - ・人口100人当たりの交通事故(人身)発生件数 0.36件(県全体0.42件)【資料④】

すまい・家計

「地価が安く、持ち家が入手しやすい」

- 指標
- ・平均地価 21,734円/㎡(県全体67,591円/㎡)【資料⑤】
  - ・持ち家世帯比率 82.6%(県全体72.8%)【資料⑥】

「家計支出が少なく、借金も少ない」

- 指標
- ・世帯全体の1ヶ月間の平均家計支出額 187千円(県全体217千円)【資料①】
  - ・世帯全体の借入金額 2,395千円(県全体5,239千円)【資料①】

子育て・教育

「待機児童がいない」

- 指標
- ・待機児童のいない市町村の割合 100%(県全体82%)【資料⑦】

「少人数教育が行われ、不登校児童が少ない」

- 指標
- ・小学校1学級当たりの児童数 14.1人(県全体21.6人)【資料⑧】
  - ・中学校1学級当たりの生徒数 19.1人(県全体27.0人)【資料⑧】
  - ・不登校児童生徒のいない市町村の割合 46.7%(県全体23.1%)【資料⑧】

【資料①】平成21年度奈良県民のくらしに関する調査 【資料②】文部科学省「平成26年度全国学力・学習状況調査」

【資料③】平成26年市町村別犯罪発生状況 【資料④】平成26年交通事故発生件数

【資料⑤】平成26年奈良県地価調査(基準地価格の平均値) 【資料⑥】総務省「平成22年国勢調査」

【資料⑦】厚生労働省「平成26年度保育所入所待機児童数調査(H26.4)」

【資料⑧】文部科学省「平成26年度学校基本調査」

## 2

### 南部地域が目指す姿

#### 頻繁に訪れてもらえる地域になる（「交流」の促進）

南部地域を元気にしていくためには、まず、南部地域に都市部から多くの人に「頻繁に訪れてもらう」ことが必要です。

訪れる人が増えることは、訪れた人の消費により地域経済が活性化（「しごと」の確保）するとともに、そこで住もうと考える人の増加にもつながります。

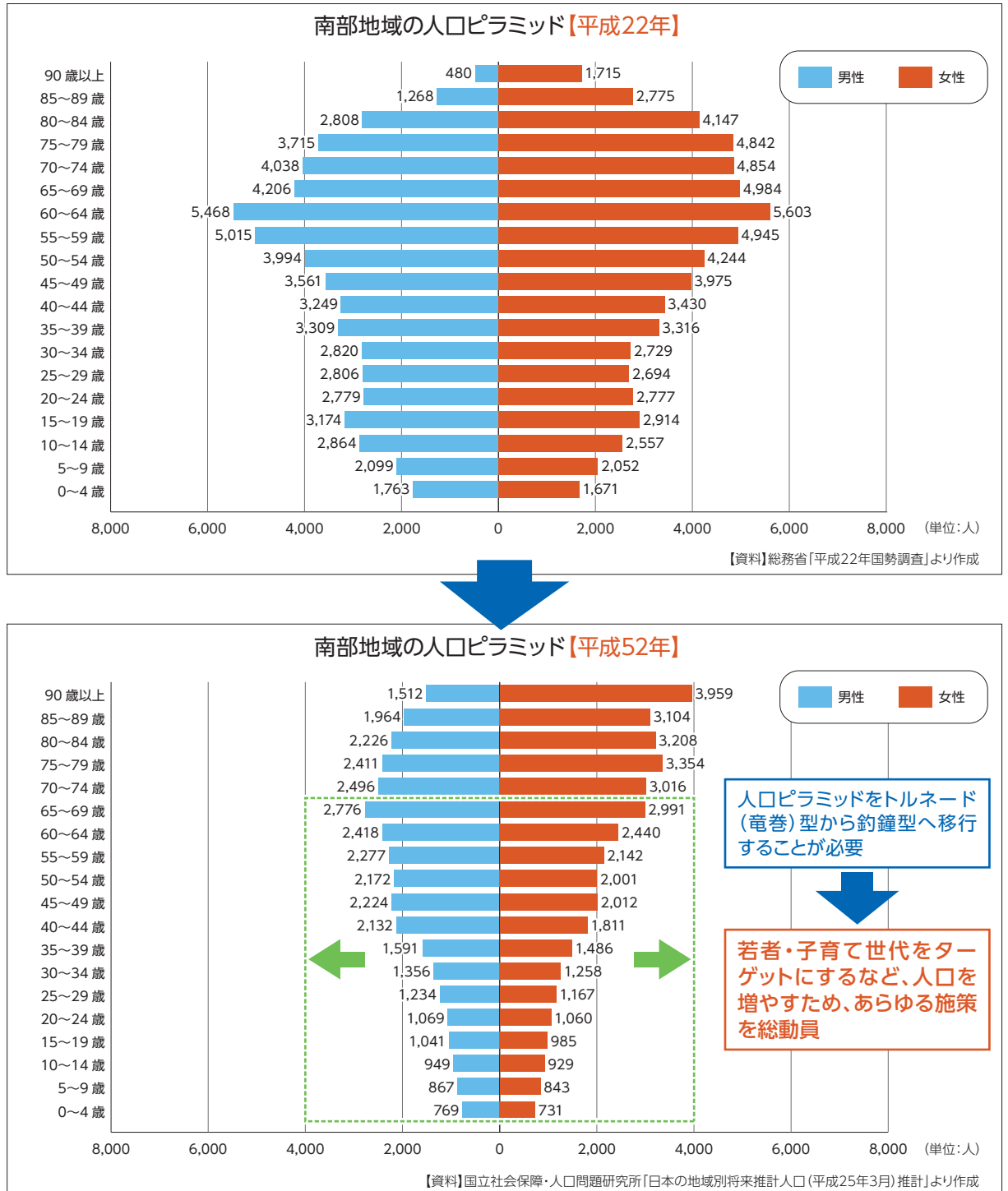


#### 住み続けられる地域になる（「定住」の促進）

この地域を「住み続けられる」地域にしていくことも重要です。

仕事の確保や医療・福祉、教育などの充実、災害への備えなどを進め、今住んでいる人や移住してきた人が、将来にわたって住み続けられる地域にしていくことで、地域の維持、活性化が可能となります。

図10:南部地域が目指す姿のイメージ



村立黒滝こども園(黒滝村)

## 1

### 訪れてみたくなる地域づくり（交流の促進）

#### 現状と課題

##### ①観光客数の動向

- 平成23年9月の紀伊半島大水害で一時的に落ち込んだ観光客数も、積極的な観光プロモーションの実施、プレミアム宿泊旅行券の発行、そして南部地域での会議開催支援などの取組により、回復を果たすことができました。しかし、その後の観光客数は横ばい状態であり、さらなる増加策が求められています。

##### ②観光客数の季節的偏り

- 南部地域は、吉野山の桜の時期や夏のキャンプ時期には、たくさんの観光客が訪れます。一方で、それ以外の季節には、観光客が少ない閑散期となっており、一年を通じて観光客に訪れてもらうための対策が必要です。

##### ③宿泊客の発地状況

- 南部地域の宿泊客は、約9割が近畿府県からで、県内からの宿泊客数は少ない状況です。まずは、県内でのプロモーション、さらには長期滞在も見込める首都圏等へのプロモーションが必要です。

##### ④観光資源

- 南部地域には、吉野山の桜、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、十津川温泉など認知度の高い観光資源があります。
- 一方、認知度は低いものの、祭りや伝統芸能、郷土料理など、観光資源となりうる魅力的な地域資源がたくさん存在しており、その活用が求められています。
- さらに、新たな観光客層を開拓するため、観光資源の創出が求められています。

##### ⑤交通アクセス

- 南部地域の観光地は、主要な駅や空港等からの距離が遠いことから、訪れてもらいやすい地域にするため、交通手段を確保していく必要があります。

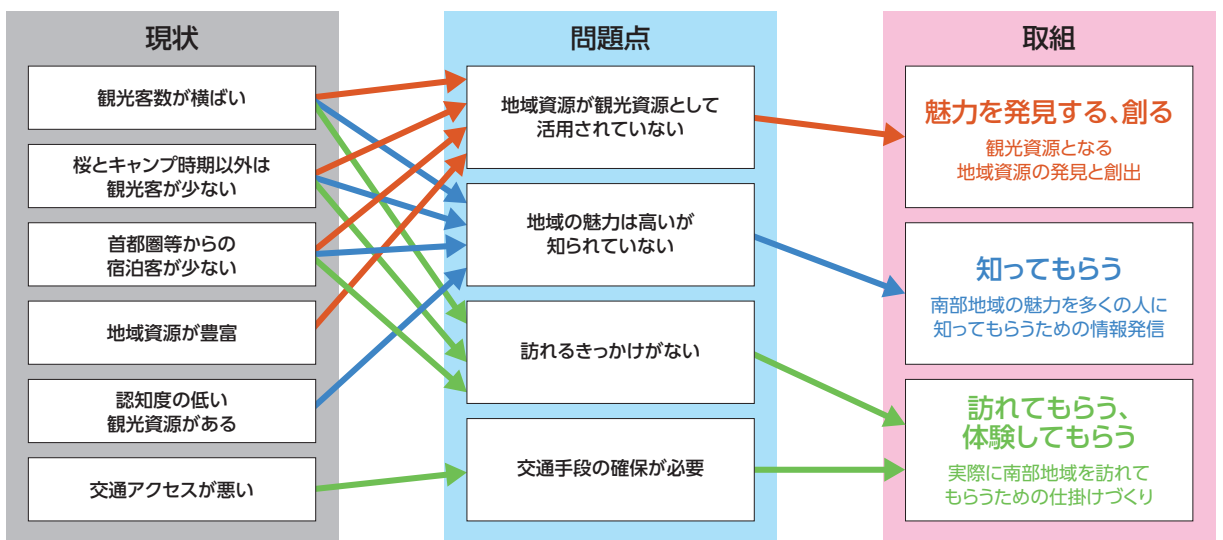


熊野参詣道小辺路(十津川村)

取組の方向性

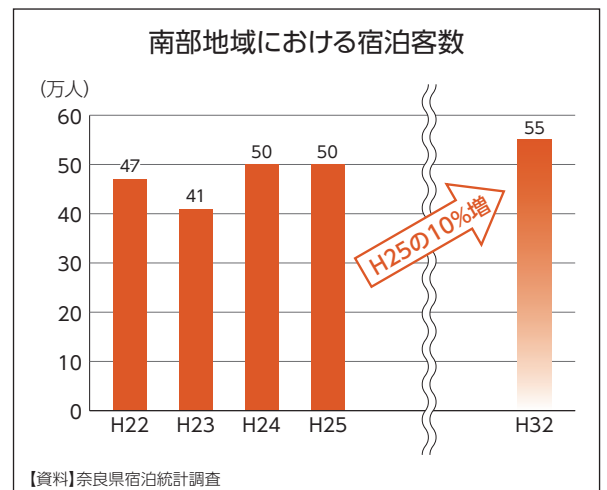
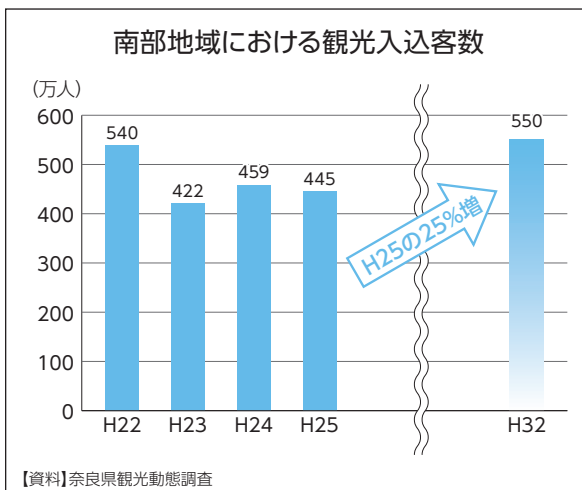
上記の現状と課題に対応するため、訪れてみたくなる地域づくりでは、次の3つの取組を行います。

- (1) 魅力を発見する、創る  
(観光資源となる地域資源の発見と創出)
- (2) 知ってもらう  
(南部地域の魅力を多くの人に知ってもらうための情報発信)
- (3) 訪れてもらう、体験してもらう  
(実際に南部地域を訪れてもらうための仕掛けづくり)



目 標

- ・平成32年の観光入込客数を550万人にすることを目標とします。
- ・平成32年の宿泊客数を55万人にすることを目標とします。



## 具体的な取組

### (1) 魅力を発見する、創る

地域の自然景観、歴史的文化遺産、そして郷土料理など、魅力的な観光資源となる地域資源を発見するとともに、それぞれの地域特性に合った新たな観光資源を創出するため、以下の取組を進めます。

#### ① 特色ある食と宿泊施設等の整備推進

- ・「なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)」との連携のもと、すばらしい眺望の場所に地元食材を活かして「食」と「泊」を売り出すオーベルジュ\*等の整備を促進するとともに、それらのネットワーク化を推進します。

\*オーベルジュ:フランスが発祥の郊外や地方にある宿泊設備を備えたレストラン

- ・農林業を体験できる農家民宿をはじめ、美味しい郷土料理など地域の魅力を楽しめる特色のある宿泊施設の整備を支援します。

#### ② 美しい景観づくり

- ・植栽を通じて魅力ある庭づくり、さらには美しい景観づくりを行うことを目指して策定した『奈良県植栽計画』(「なら四季彩の庭」づくり)に基づき、南部地域の自然環境や森林資源を生かし、見るだけでなく、いろいろな楽しみ方や活動ができる「庭」を整備します。
- ・美しい景観を保全し、創造するため、道路沿いの緑化活動など県民との協働による取組を促進します。

#### ③ 地域資源を活用した魅力づくり

- ・優れた自然景観、祭りや伝統芸能、郷土料理、歴史遺産など、地域資源の魅力を再発見し、これらを有効活用した取組を進めます。
- ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や石舞台古墳などの歴史遺産を活用した旅行商品、温泉やスキー場、ダム湖など地域の自然を活かした旅行商品、国の重要無形民俗文化財「十津川の大踊」など伝統芸能を体験できる旅行商品等の開発を進めます。

#### ④ 多様なスポーツ施設の整備

- ・南部地域の地形や地域ならではの自然資源・自然環境を活かしたカヌーやサイクリングなどアウトドアスポーツで地域との交流を図ることにより魅力に親しみ、楽しむことができる施設の整備を促進します。
- ・京都府、和歌山県と連携し、広域的な自転車道を整備し、自転車によるスポーツツーリズムの促進とサイクリストと地域のふれあいの場づくりによる地域活性化を図ります。



カヌー教室(川上村)

取り組んでいます



### 五條市新町地区

- 五條市新町地区は「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されており、江戸時代の情緒ある町並みが特徴のエリアです。地区内では、空き家を活用した宿泊施設やレストランの整備など、景観に配慮しつつ、宿泊者などのニーズに応じています。



五條市新町通り

### 吉野町森林セラピーロード

- 歴史・文化的、自然的観光資源を数多く持つ吉野町の中でもセラピー効果の期待できる2箇所において、セラピーロードを整備しています。
- 平成24年3月には、奈良県内で初めて「森林セラピー基地」及び「森林セラピーロード」について認定を受けました。
- 両コース共に滝があり、マイナスイオン効果を満喫できる森林セラピーが楽しめます。



森林セラピーロード体験ツアー

### 十津川村谷瀬集落

- 谷瀬の吊り橋を見渡せる山の中腹に展望台を整備し、吊り橋から展望台までの道を「ゆっくり散歩道」と名づけて、案内看板、ベンチの設置や花木の植栽を行っています。
- 吊り橋近くの茶屋では、「ゆうべし」や「高菜」等地元で生産された商品が売られて、観光客にも好評です。
- 空き家を活用して特産品づくりや来訪者との交流など「生きがい・やりがいの場」となる拠点づくりを進めています。



谷瀬展望台

### 下北山村スポーツ公園

- スポーツ公園では、これまでから、多目的グラウンド、キャンプ場や宿舍などの施設を使って、合宿や研修に利用されてきました。
- 平成26年1月には、新たに人工芝のサッカー専用グラウンドを整備し、通年利用によるサッカー大会や宿泊を伴った合宿などでの利用が増加しています。



人工芝サッカー場

## (2)知ってもらう

県内や近畿府県、さらには首都圏等における認知度を向上させるため、以下の取組を進めます。

### ①情報発信の強化

- 旅行雑誌や旅行サイト、動画サイトを活用した観光情報の発信や域内情報誌の発行、交通機関等とタイアップした観光キャンペーンを実施します。
- JAならけんまほろばキッチン内の観光案内所や道の駅等において、県内や近畿府県から南部地域への訪問を促すため、観光情報の提供や市町村等と連携したイベントを実施します。
- 首都圏や関西圏等における南部地域への関心層を広め、宿泊客誘致に繋げるため、鉄道駅のデジタルサイネージやプロモーションイベント等による観光情報の発信を強化します。
- 地域にゆかりのある著名人を「観光大使」に任命し、マスメディア等を活用した広報活動による情報発信を強化します。
- 南部地域を訪れる外国人を増やすため、映像(英語字幕化)や海外メディア等を活用した情報発信、ビジット・ジャパン事業を活用した外国人観光客誘致キャンペーンを実施します。
- 外国人観光客が必要とする観光情報を掲載した多言語ガイドブックなどを作成します。

取り組んでいます



### 映像による情報発信

- 南部地域の自然豊かな美しい原風景や素朴かつ精神性の高い山間文化、歴史・人の営みの魅力にストーリー性やテーマ性を持たせた動画「美しき日本・奈良」を20本制作・配信しています。
- 外国人向けに英語字幕版の制作・配信もしています。

「美しき日本・奈良」ロゴマーク



### 情報誌による発信

- 南部地域を知ってもらうため、各エリアを取り上げた着地型パンフレット「ご当地じゃらん」を発行しています。
- 現地の観光拠点や宿泊施設で配布するとともに、雑誌への挟み込みを実施することで、これまでに多数の誘客効果を生んでいます。

「ご当地じゃらん」シリーズ



### (3)訪れてもらう、体験してもらう

南部地域のことを知り関心を持った人々に、実際に南部地域を訪れてもらうため、以下の取組を進めます。

#### ①スポーツイベントの開催

- ・トレイルランニング※1、ボルダリング※2、ダム湖でのカヌー、山岳ロードでのサイクルスポーツなど、南部地域の地形や自然を活かしたスポーツイベントを開催します。
- ・南部地域の施設や自然を活用したスポーツ選手の自主トレや合宿を誘致します。

※1 トレイルランニング:山などの未舗装の道を走るスポーツ

※2 ボルダリング:道具を使わずに岩や岩壁を登るスポーツ

#### ②音楽・芸術イベントの開催

- ・県内最大規模の音楽イベントであり、全国から高い注目を集める「ムジークフェストなら」のコンサートを南部地域でも開催します。
- ・高い集客力が見込める野外音楽フェスティバルや芸術イベントの開催に取り組みます。

#### ③地域資源を活用したイベントの開催

- ・森林を活用したセラピーイベント、雪遊びイベント、イノシシやシカなどの有害鳥獣を活用した食イベントなど、地域資源を活用した各種イベントの開催に取り組むとともに、地域の伝統行事を活性化します。

#### ④交通アクセスの支援

- ・駅等から観光地までの直行バスの運行や、路線バス利用者に対する補助等により、観光客の南部地域へのアクセスを支援します。
- ・主要な観光地への良好なアクセスを確保するための道路整備を推進します。また、観光地間の周遊促進、観光地における回遊環境の改善に資する道路整備を推進します。

#### ⑤おもてなし力の向上

- ・南部地域を訪れた観光客の満足度を高めるため、旅館経営者や市町村職員等を対象とした「おもてなしセミナー」を開催します。また、外国人観光客に対するおもてなし力を向上させるため、通訳ガイドや観光事業者等を対象とした研修を実施します。
- ・各種イベントとあわせて実施される前夜祭など、地域独自のおもてなしの取組を支援します。

#### ⑥誘客促進の仕掛けづくり

- ・WEBサイトや雑誌などと連携した誘客促進の仕掛けづくりを行います。
- ・南部地域での合宿を増やすため、スポーツ選手や児童・生徒等の合宿に係る経費を支援します。
- ・外国人観光客を増やすため、観光地などにおける多言語表示、無線LAN・Wi-Fiの整備を推進します。



## Kobo Trail

- 南部地域の地形を活かしたスポーツイベントとして、平成26年6月に初めてトレイルランニングレース「Kobo Trail 2014」を実施しました。若き日の弘法大師(空海)が踏破した道を走る「吉野山金峯山寺～高野山金剛峯寺」(55.7km)と「天川村洞川～高野山金剛峯寺」(42.4km)の2つのコースが設けられ、全国から多数のランナーが参加しました。



Kobo Trail 2014

## 県と市町村の共同イベント

- なんゆう祭は、南部東部地域の19市町村と県が共同で、平成25年度から開催している大規模な地域活性化イベントです。25年度は川上村、26年度は五條市で開催されました。地域特産品等の物産展や各種ステージイベント等を充実させることで、魅力を向上させ、多数の人が訪れるイベントとなっています。



なんゆう祭2014(五條市)

## 伝統行事の保存と活性化

- 五條市大塔町篠原地区の「篠原踊り」は、室町時代から続く踊りであり、県の無形民俗文化財に指定されています。後継者不足で存続が危ぶまれる状況になっていましたが、地元保存会と市、県が協力して、後継者育成事業を行うことで、市内外から約30人の参加者が集まり、伝統行事の保存と活性化に取り組んでいます。



イベントで練習成果を披露する様子

## 路線バス利用の補助

- 冬期は、自家用車による来訪が減少するため、南部地域への冬期の観光客数は、非常に少なくなっています。そこで、冬期(1～3月)に、南部地域へ路線バスを利用して訪れた宿泊客に、バス運賃を補助することで、観光客数の増加を図っています。



十津川村内を走る路線バス

## 2

# 住み続けられる地域づくり（定住の促進）

## 現状と課題

### ①人口の社会増減

- ・南部地域の人口の社会増減は、転出数が転入数を年間1,000人を上回る状況が続いています。地域を維持するためには、転出者を減らし、転入者を増やす必要があります。
- ・全国的に、都市部から農山村地域への移住を希望する人が増えています。しかし、実際に移住するにあたっては、仕事や住まいなどに不安を持つ人も多く、スムーズな移住のためには、地域での暮らしがイメージできるような情報の提供、市町村や地域と一体となった対応が課題となっています。

### ②産業・雇用の状況

- ・南部地域を、住み続けられる地域とするためには、働く場の確保が必要となります。
- ・かつて南部地域の主要産業であった林業は、従事者が大きく減少しており、その活性化が求められています。そのため、森林を「木材生産林」と「環境保全林」に区分し、それぞれの機能に応じた適切な整備や保全を推進していくこととしています。

### ③医療・福祉の状況

- ・広大な南部地域の医療は、公立病院、へき地診療所及び民間医療機関が担っていますが、急性期医療については、公立病院が中心的な役割を担っています。医療の充実のためには、医師確保や救急医療体制の確保等をさらに進める必要があります。
- ・高齢化が進む南部地域で、安心して住み続けるためには、医療と介護の連携など地域包括ケアシステムの構築が必要です。

### ④教育の状況

- ・南部地域では、1学級当たりの児童・生徒数が少なく、きめ細かな教育が行われていますが、集団での学びの機会が減少しています。また、複式学級や学校の統廃合が生じています。そのため、義務教育においては、へき地教育の充実が求められています。
- ・高校教育においては、地域内外から生徒が集まる学校の魅力の向上と、地域の振興に貢献できる人材の育成が求められています。

### ⑤道路の状況

- ・山間部の道路は、平野部の道路に比べて、地形的に落石や斜面崩壊等による災害の影響を受けやすいという特徴があります。そのため、災害に強い道路として、「紀伊半島アンカールート」を早期に整備するとともに、道路の防災・減災対策を効率的・効果的に進めていく必要があります。

## ⑥河川の状況

- 紀の川水系は、日本一の多雨地帯として知られる大台ヶ原を源としており、大雨による洪水被害を生じやすい地域です。そのため、県では『紀の川水系河川整備計画』に基づき、河川環境の保全等に十分配慮しながら、河川改修を進めていく必要があります。
- 新宮川水系においては、紀伊半島大水害以降も頻発する豪雨や洪水により、河道内に堆積した大量の土砂を除去することが必要です。

## ⑦紀伊半島大水害による被災施設の復旧の状況

- 紀伊半島大水害により大きな被害を受けた道路、河川等の復旧は、「集中復旧・復興期間」内に概ね完了しましたが、一部の継続する復旧工事については、引き続き、着実に進めていく必要があります。



麦谷地区土石流対策(東吉野村)

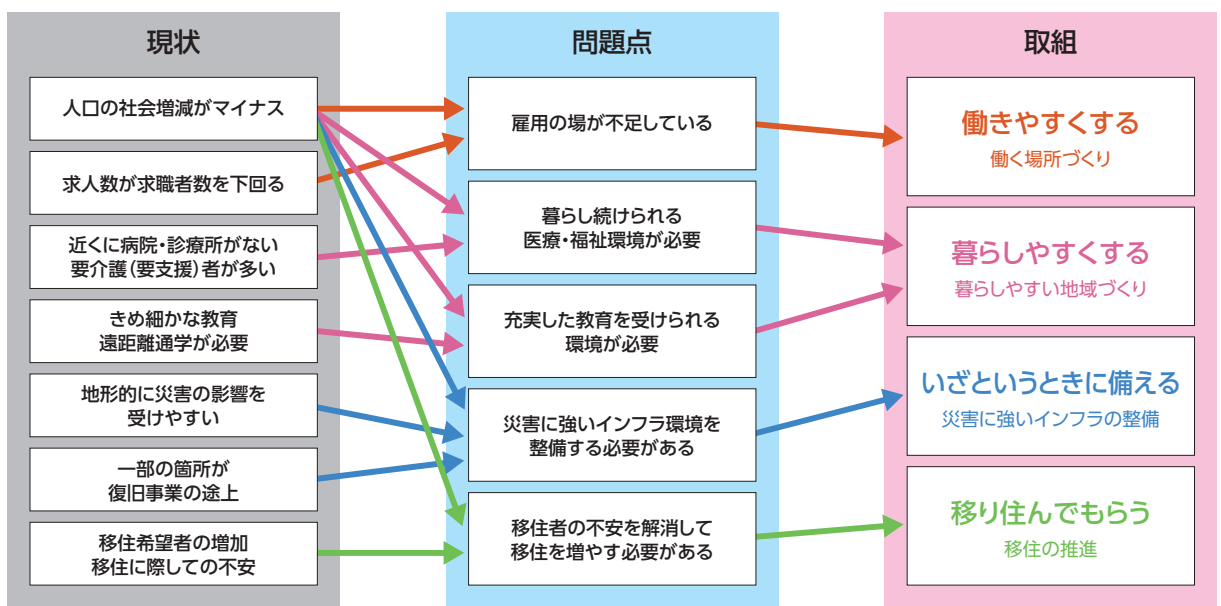


紀伊半島アンカールート(辻堂バイパス)(五條市)

取組の方向性

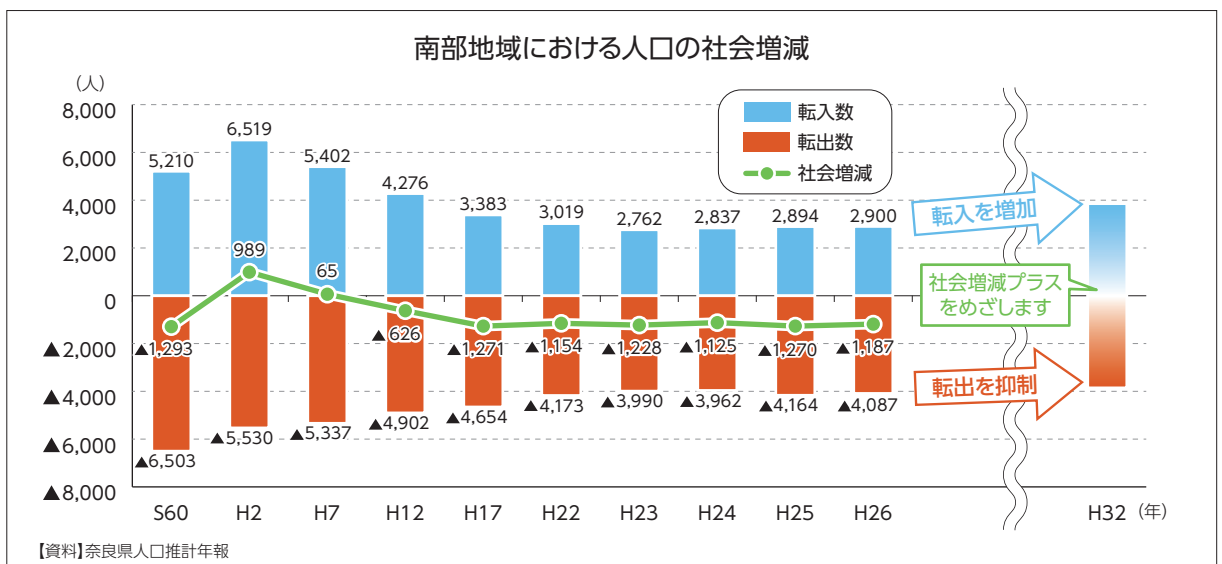
上記の現状と課題に対応するため、住み続けられる地域づくりでは、次の4つの取組を行います。

- (1)働きやすくする(働く場所づくり)
- (2)暮らしやすくする(暮らしやすい地域づくり)
- (3)いざというときに備える(災害に強いインフラの整備)
- (4)移り住んでもらう(移住の推進)



目 標

・平成32年の人口の社会増減をプラスにすることを目標とします。



## 具体的な取組

### (1)働きやすくする

地域で生活し続けていくためにも、移住を検討している方にとっても必要な働く場を確保するため、以下の取組を進めます。

#### ①農産物等のブランド化・生産拡大の推進

- ・地域の気候や地形を活かした「大和まな」や新品種の柿など特色ある農産物の生産強化や首都圏でのプロモーション活動と輸出の拡大による流通販売の強化拡大を進めます。
- ・道の駅や農産物直売所などへの産地直送による域内消費の拡大や柿、茶、有機野菜などの高品質・高付加価値化を推進します。
- ・農業者と多様な業種が連携した6次産業化の推進、例えば県産小麦を原料としたそうめんなど新たな食品・加工品の開発による利用の拡大により農業の担い手の育成・確保を行います。
- ・吉野川・熊野川の本支流におけるアユやアマゴなどの内水面漁業・養殖業の振興と販路開拓による経営の安定化を図ります。
- ・イノシシやシカなどによる農林水産物の被害を軽減するため、鳥獣が寄りつかない環境づくりや、侵入防止柵の設置、個体数調整を進めるとともに、捕獲獣の食材等への有効活用を促進します。

#### ②「A・B・C材※全てを出して使う」林業・木材産業の推進

- ・「高級材を選んで出す林業」から「A・B・C材全てを搬出して多用途に供給する林業」への転換を推進します。
- ・A・B・C材ごとに受け入れる製材・加工施設の確保と、それぞれの流通体制の構築を図ります。
- ・公共建築物や民間建築物への県産材（建築用材、集成材・合板）の利用や、木製家具などのくらしの道具や土産物などへの県産材の活用を推進します。
- ・発電や給湯など、木質バイオマスエネルギーの利活用の拡大を図ります。
- ・奈良の木の魅力を発信する人材の養成や、森林への理解を深める奈良の木ツーリズムの推進を行います。

※A・B・C材:木材を品質(主に曲がりなどの形状)や用途によって分類する際の通称。  
基本的に、A材は製材、B材は集成材や合板、C材はチップや木質ボードに用いられる。



家具展(黒滝村)



柿の里 西吉野町(五條市)

#### ③漢方のメッカ推進

- ・奈良県にゆかりの深い漢方について、生薬の生産拡大や関連する商品・サービスの創出などを総合的に推進します。
- ・薬用作物の優良品種の育成や安定生産技術の研究開発を推進するとともに、生薬の薬効研究を行い、奈良の生薬のブランド確立を図ります。
- ・県産生薬等を利用した医薬品、化粧品及び食品等の新商品の開発を支援します。
- ・薬用作物のニーズと県内栽培者の状況を把握した上で、川上(栽培者)と川下(医薬品、化粧品、食品メーカー等)のマッチングを推進し、南部地域における薬用作物の生産量の増加を図ります。

#### ④企業誘致の推進

- ・京奈和自動車道御所インターチェンジ周辺に造成する新たな産業用地や、五條北インターチェンジ周辺で分譲中の工業団地などへの立地を促進し、地域に新たな雇用を創出するため、企業立地補助金などの支援制度を活用した企業誘致を推進します。
- ・廃校跡地などの遊休施設や産業用地の情報収集に努め、整備された光ファイバー網や企業立地補助金などの支援制度を活かし、地域に雇用を生み出す企業誘致を推進します。

#### ⑤地域の産業興し

- ・地域の産業を活性化させるため、それぞれの地域の特長ある資源を活用した新商品の開発や販路拡大の取組等を支援するとともに、プレミアム商品券の発行などにより、地元商業の活性化を図ります。
- ・在宅ビジネスやテレワークなどを希望する未就業者を掘り起こし、セミナーの開催や相談窓口の設置など在宅での起業の支援を行います。
- ・制度融資などを活用した起業・創業を促進することにより、雇用の場の創出を図ります。
- ・地域に応じた生活支援や生活環境の維持を図るためのコミュニティビジネスを推進することにより雇用を創出します。
- ・店舗開業によるにぎわいのあるまちづくりのため、空き店舗などを活用した起業の支援を行います。

御所インターチェンジ(御所市)



生活応援せんとくんプレミアム商品券



取り組んでいます



## 十津川村家具プロジェクト

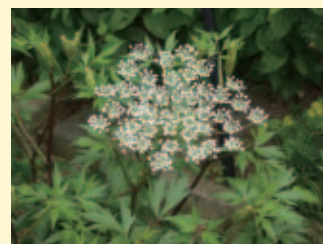
- これまでは、山から伐り出した木をそのまま販売する形でしたが、マーケットのニーズをとらえ、高付加価値製品に加工して販売する6次産業化を推進しています。
- 「十津川村家具プロジェクト」は、この6次産業化の一環として、著名な家具デザイナーの協力のもと、デザイン提案・設計された試作品の製作、商品カタログの制作、国内外での展示会、家具製作者の技術習得など十津川ブランドとして魅力あふれる家具づくりと家具職人の育成による新たな雇用の場の創出に取り組んでいます。



プロジェクト製作家具

## 県産薬用作物を使用した製品開発の支援

- 県の生薬は、「大和物」として品質が良いことで知られています。大和トウキやシャクヤクもそのひとつで、婦人科系の漢方薬によく用いられています。
- 地産地消の観点から、県産生薬の需要拡大と、雇用の促進に貢献するため、県内企業と共同で新製品の開発を行っています。これまでに、県産生薬を使用した美容液や保湿クリームが製品化されました。



大和トウキの花

## コミュニティビジネスによる地域支援

- 下北山村の「NPO法人サポートきなり」は、地域の生活支援や生活環境を維持するための応援隊による組織として、活力あふれる地域社会の実現と雇用の促進を図っています。
- 主な活動は、過疎地有償運送、有害鳥獣対策による耕作地の維持、草刈り等による生活環境の支援、空き家調査や管理、遊休農地・耕作放棄地を活用した地域農産物の生産及び朝市による販売など、地域住民への支援を行っています。



土曜朝市の様子

## 大和野菜に認定された「黒滝白きゅうり」の栽培拡大と商品化の促進

- 黒滝村では、江戸時代から村内で栽培されていたとされる「黒滝白きゅうり」の栽培とそれを活用した産業興しを行っています。
- 「黒滝白きゅうり」の苗を村民に無償配付し、生産された白きゅうりを村の観光施設（黒滝・森物語村）が買い上げ、漬物（ひね漬け・ピリ辛漬け）、佃煮などに加工し、レストランでの提供や道の駅「吉野路黒滝」の直売所で販売しています。



黒滝白きゅうり(写真上部は普通のきゅうり)

### (2)暮らしやすくする

地域で暮らし続けるために必要な環境を整えるため、以下の取組を進めます。

#### ①健康、医療、福祉、介護の充実

- ・高齢者等が地域で安心して住み続けることができるようにするため、医療・介護などが連携した地域包括ケアシステムの構築を推進します。
- ・これまで五條市大塔町でモデル的に進めてきた取組(「おおう元気会議」次頁参照)について、他の地域への普及を図ります。
- ・南部地域が抱える医療の課題に対応するため、地域の3つの公立病院について、県と五條市、吉野郡全町村を構成団体とする南和広域医療組合を設立し、救急医療を中心に担う病院(南奈良総合医療センター)と、療養期を中心に担う病院(吉野病院、五條病院)に再編整備します。
- ・「総合医」の育成や安定的な医師配置システムを運営するなど、へき地医療体制の充実を行います。
- ・ドクターヘリの共同利用(大阪府、和歌山県)を引き続き行うとともに、県独自のドクターヘリ導入に向けた検討を進めるなど、救急医療体制の充実を図ります。
- ・「こころのケア」を必要とする紀伊半島大水害の被災者に、臨床心理士による相談支援を引き続き行います。

#### ②教育の充実

- ・県立高校の特色化により、全国から南部地域に生徒が集まる魅力ある高校づくりを進めます。
- ・地元企業に就職する等、南部地域の振興に貢献できる人材を育成するため、職業教育を充実させます。
- ・教員の指導力向上を図る研修の実施等により、へき地教育の充実を図ります。
- ・学校統合等による通学費の増加による保護者の負担を軽減するため、遠距離通学を行う児童・生徒の通学費に対する補助を行います。
- ・こころ豊かに暮らすことができるよう、あらゆる世代の学びの機会の充実を図ります。

#### ③子育ての支援

- ・すべての子育て家庭が個々のニーズに応じた子育て支援を利用できるよう、市町村と連携し、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援事業の着実な実施と質の向上に取り組みます。

#### ④買い物等の支援

- ・南部地域における固定店舗や移動販売の営業状況や、住民の買い物方法等の実態を把握したうえで、地域での買い物を、市町村、住民団体、NPO及び民間企業等多様な主体と連携し、「固定店舗の維持・誘致」「商品の配達」「店舗までの交通確保」などの方法で支援します。

#### ⑤移動手段の確保

- ・路線バスやコミュニティバスなど、利用目的や地域条件に適した地域公共交通網を構築して、通勤、通学、通院、買い物など、広域での移動手段を確保します。
- ・住民団体、NPO及び民間企業等多様な主体と連携した過疎地有償運送への実施支援など、地域住民の日常生活に必要な通院や買い物などの移動手段を確保します。

## ⑥文化の振興

- 地域の伝統文化継承や文化イベントの実施など、文化芸術活動を活性化させるための取組を支援します。

## ⑦集落の維持・活性化

- 集落の維持・活性化のため、集落機能の見直しや集約化、IターンやUターンの受け皿づくりなどの検討を進めます。
- 居住環境の整備改善を図るため、空き家や空き建築物の活用や除却を支援します。
- 地域コミュニティの機能向上を図るため、まちづくり協議会など、地域の様々な構成主体が協働して地域課題の解決や新たな施策・事業を協議する場づくりや組織づくりを支援します。
- 地域活性化のための活動を行うNPO等を支援します。
- 紀伊半島大水害により被災を受けた地域の集落づくりを引き続き支援します。

取り組んでいます



### おおとう元気会議

- 紀伊半島大水害により大きなダメージを受けた五條市大塔町では、被災後、「地域で暮らし続けるための仕組みづくり」を行うため、地元住民、自治連合会等の住民組織、五條市、県といった行政の他、郵便局等の多様な組織や機関が参画して「おおとう元気会議」が立ち上がりました。
- この「おおとう元気会議」での検討を通じ、高齢者の見守り・訪問、配食サービス、買い物バスツアーの運行など様々な取組が行われています。
- 今後このような取組が、高齢化や過疎化といった同様の課題を抱える他の地域にも普及することが期待されます。



消防署による見守りを兼ねた防火訪問

### 十津川村高森のいえプロジェクト

- 十津川村では、「村に最後まで住み続け、助け合い支え合う住まい方モデルを実現すること」を目標に、特別養護老人ホームがある同村高森集落に、村内周縁部に点在する集落の高齢者が集まって暮らすことができる高齢者向け住宅の整備などに取り組んでいます。
- この住宅では、集まった高齢者同士はもちろんのこと、地域の住民とも交流することにより、もしもの時の不安の解消につなげるとともに、農作業などを通じた生き甲斐づくり、健康づくりにつなげていくことを目指しています。
- こうした高齢者の安心拠点集落づくりは、過疎化が進む地域の集落問題の有効な解決手法として注目されています。



高森集落「高齢者向け施設」等の風景イメージ

### (3) いざというときに備える

災害に強く、安心して暮らせる地域にするため、以下の取組を進めます。

#### ① 紀伊半島アンカールート※の整備

- 南部地域の活性化を図るとともに、近い将来に発生が危惧される南海トラフ巨大地震等の大規模災害への対応力を強化する観点から、国道168号五條新宮道路及び国道169号の早期整備を進めます。

※紀伊半島アンカールート:京奈和自動車道、近畿自動車道紀勢線、国道168号及び国道169号で形成されている道路ネットワークの呼称であり、その形が船の錨(いかり)に似ていることから「アンカールート」と呼んでいます。

#### ② 効率的・効果的な道路防災対策の推進

- 依然として災害に脆弱な道路が多数存在する南部地域において、災害への対応力を強化する観点から、道路の防災・減災対策及び老朽化対策を効率的・効果的に進めます。

#### ③ 土砂災害対策の推進と山地災害の予防と復旧

- 一瞬にして、尊い人命や貴重な財産を奪うなど、甚大な被害をもたらす土砂災害を防止するため、砂防、地すべり対策及びびがけ崩れ対策を進めます。
- 山地災害から安全で安心な暮らしを守る山崩れ対策を進めます。

#### ④ 河道整備

- 河道の適切な流下能力を確保し、洪水による災害に対する安全性の向上を図るため、紀の川の整備等を推進します。
- 国、和歌山県及び三重県と連携して、熊野川の総合的な治水対策を進めます。

#### ⑤ 災害に強い森林づくり

- 森林の持つ水源涵養や国土保全といった機能を維持、増進するため、適切な森林の整備、保全に取り組みます。

#### ⑥ 災害に強い情報ネットワークづくり

- 災害時においても情報通信が途絶しないよう、情報ネットワークを強化するための基盤整備を進めます。

#### ⑦ 地震に強い地域づくり

- 地震災害による建築物の倒壊を未然に防ぎ、住民の生命、身体及び財産を守るため、既存木造住宅の耐震化に取り組みます。

#### ⑧ エネルギーの確保

- 緊急時に備えた自立・分散型エネルギーの普及に取り組みます。
- エネルギーの地産地消を目指し、地域振興にもつながる多様な再生可能エネルギー等の普及拡大に取り組みます。

#### ⑨ 防災力向上と紀伊半島大水害の次世代への継承

- 南海トラフ巨大地震等による大規模災害発生時に、県内はもとより津波による甚大な被害が想定される沿岸部を有する近府県への支援にも対応するため、ヘリポートを併設する陸上自衛隊駐屯地の県南部(五條市)への誘致を進めるとともに、備蓄倉庫・ヘリポート等を備えた県の広域防災拠点の整備を図ります。

- ・改正災害対策基本法や奈良県地域防災計画の見直し等を踏まえ、市町村が行う地域防災計画の見直しを支援します。
- ・「公助」だけでなく「自助」「共助」も連携して高めることが重要であることから、自主防災組織の活性化を図るなど、地域防災力の底上げを目指します。
- ・紀伊半島大水害から学んだ貴重な教訓を次世代に継承していくため、防災教育やシンポジウムの開催など県民への周知、啓発を推進します。

#### ⑩紀伊半島大水害の復旧の完了

- ・紀伊半島大水害により被災したインフラの復旧を引き続き推進します。

取り組んでいます



### 国際防災学会インタープリVENT2014

- ・国際防災学会インタープリVENTは、土砂災害の防止・軽減に関する研究の促進と併せて防災技術・知識を普及するための国際学会です。
- ・この国際学会が、奈良県で開催(平成26年11月25日～28日、参加25ヶ国406名)され、紀伊半島大水害を契機として奈良県が取り組んできた深層崩壊のメカニズム解明と対策研究など土砂災害防止・減災に関する情報を、世界に向けて発信しました。
- ・連携企画として、県でも11月24日に一般県民を対象に防災セミナーを開催しました。



インタープリVENT2014

### 紀伊半島大水害からの復旧・復興

- ・平成23年9月の紀伊半島大水害は、南部地域に甚大な被害をもたらしました。
- ・県では、この大水害から早期の復旧・復興を実現するため、「復旧・復興計画」を策定し、平成26年度末までを「集中復旧・復興期間」と位置づけて、国や市町村とも連携し、避難者の早期帰宅を最優先課題として、道路、河川、砂防等の復旧工事や被災事業者の再建支援、観光の復興などに全力で取り組んできました。

十津川村折立  
(折立橋)

被災直後  
(H23.9)



復旧工事  
完成  
(H26.1)



#### (4) 移り住んでもらう

現役世代（アクティブシニアを含む）を中心に、都市部から南部地域への移住を検討する方々に、地域の魅力を感じてもらい、実際に移住してもらうため、以下の取組を進めます。

##### ① 二地域居住・移住を受け入れる仕組みづくり

- ・ 移住ホームページの充実と、移住者のライフスタイルにスポットをあてたパンフレットの発行により、南部地域の魅力を発信します。
- ・ 都市部での移住セミナーを開催し、南部地域に移住してもらうためのきっかけを作ります。
- ・ 県と市町村のワンストップ窓口機能を強化するとともに、奈良まほろば館や南部の集客拠点施設に移住コンシェルジュを設置して移住希望者の相談に対応します。
- ・ 県と市町村による「奥大和移住・定住連携協議会」を設立して、地域協働による移住促進の取組を進めます。
- ・ 地域住民を対象として、移住情報や地域の魅力を発信するジャーナルを発行します。
- ・ 地域における移住者の受入体制の構築が重要なことから、集落単位での「地域受入協議会」の設置を支援します。
- ・ 移住体験ツアーや古民家DIYイベントを開催するとともに、移住希望者が地域の暮らしを体験できるトライアルステイを促進します。

##### ② 二地域居住・移住を受け入れる拠点整備

- ・ 地域の状況に合わせた拠点づくりのモデルプランを策定し、二地域居住・移住に向けた特色のある施設の整備につなげます。
- ・ 空き家や廃校等を活用して、移住体験住宅や移住者支援住宅など地域で気軽にトライアルステイできる施設の整備や、チャレンジショップ、シェアオフィス、工房など、地域で働くために必要な施設整備を促進します。

##### ③ 移住者の働く場の確保

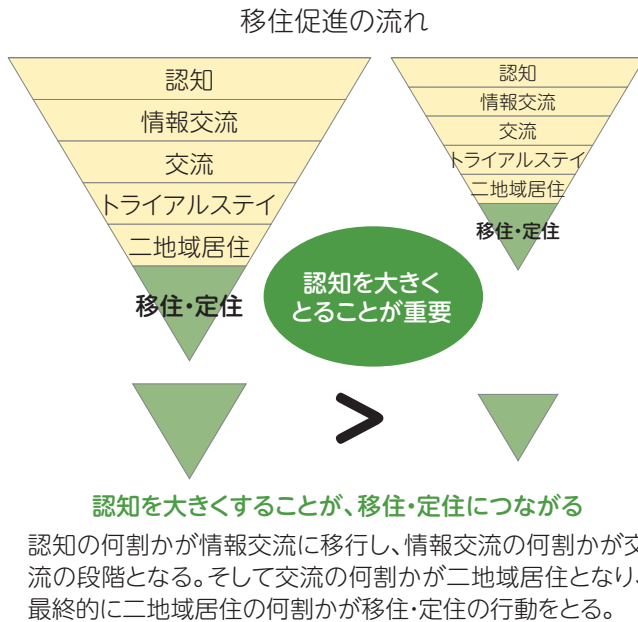
- ・ 後継者や求人を募集している地域の伝統産業や事業所、商店、旅館・民宿、ガソリンスタンド等と、地域で働きたい移住希望者とのマッチングを進めます。
- ・ 農家民宿の開業支援、農林業に係る技術・知識修得のための研修など、就業への支援を行います。
- ・ 「地域おこし協力隊制度」等を活用して、地域活性化に意欲のある都市住民の移住を進めます。



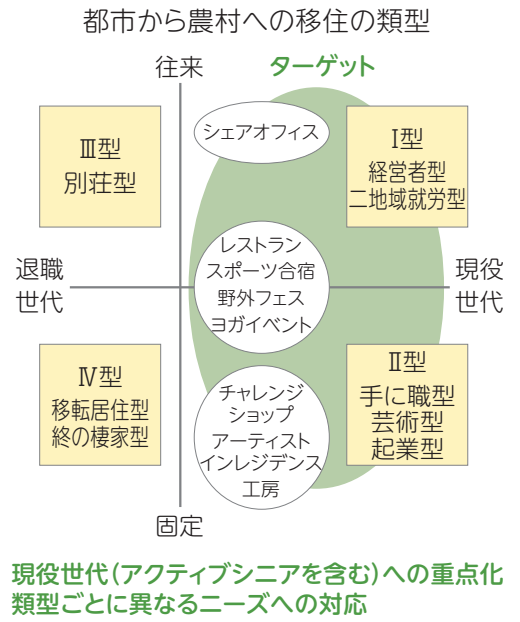
移住サイト「奈良に暮らす」

図11:移住施策の進め方とターゲットの設定

○移住施策の進め方



○ターゲットの設定



【出典】牧瀬 稔「都市から農村へ移住を促すヒント」を一部改変

取り組んでいます

奥大和クリエイティブヴィレッジ構想

- 都市部にいなくても地方で仕事ができる「デザイナー」「家具職人」「芸術家」など、職種を絞って、南部東部地域への移住を促進する取組です。
- 平成26年度は、木製家具職人が移住された下市町と、デザイナーが移住された東吉野村の2地域で、地域の空き家や廃公共施設を活用して、工房やシェアオフィスなどの受入拠点施設を整備しました。



木工家具作成の様子

川上村「仕事」と「住まい」のワンセットプロジェクト

- 役場の若手職員が中心となって、村で働くことを希望する若者に、村内事業所等での「仕事」と、空き家などの「住まい」を一体で提供する取組をはじめました。
- 村での生活と仕事を体験できる「かわかみんぐツアー」を開催しています。



かわかみんぐツアー

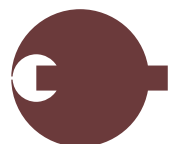


奈良県 地域振興部 南部東部振興課

〒634-0003 橿原市常盤町605-5 奈良県橿原総合庁舎3階

[TEL] 0744-48-3015 [FAX] 0744-48-3135 [E-mail] nanbu@office.pref.nara.lg.jp

[URL] <http://www.pref.nara.jp/1638.htm>



奈良県